

でかしたノリカ!



OBIRAME 28 Newsletter June 2007

「ノリカ」から採卵する川村洋司さん(右)ら(2007年5月20日、岩瀬晴夫氏撮影)

3年ぶりに人工授精に成功

「尻別川の未来を考えるオビラメの会」(草島清作会長)は2007年5月20日、北海道俱知安町内で飼育中のイトウ親魚の採卵作業に臨み、2004年以来、3年ぶりに尻別川産イトウ=オビラメの人工授精に成功しました。

飼育中の親魚5個体のうち、採卵に成功したのは、体長約90cm、体重約8kgの「ノリカ」。2000年11月4日に、会員の高橋秀邦さんが尻別川で釣り上げ、飼育池に移送して、ずっと大事に飼育してきましたが、今回初め

て、抱卵が確認されました。

この日は、北海道立水産孵化場の川村洋司主任研究員らが、麻酔で眠らせた「ノリカ」から慎重に採卵。絞り出したオレンジ色の卵をボウルに受け、続いて採取した「チビ」(おす)の精子とすばやく混ぜ合わせて授精させました。

川村さんの計測によれば、卵数はちょうど2000粒。順調にいけば、6月中旬には稚魚が孵化する見込みです。



「チビ」から精子を採取しているところ(上)/人工授精直後の卵(松枝直一氏撮影)

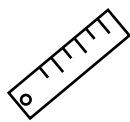
オビラメの会がこれまで人工授精に成功したイトウ

採卵日	母親	父親	採卵数	孵化数
2003年5月7日	デカ	チビ	6000	50
2004年5月7日	デカ	チビ	12400	12000
2007年5月20日	ノリカ	チビ	2000	?

6月24日、オビラメの会 2007年度通常総会

詳細は
4ページに





5匹の親魚たちのサイズ大公開



オビラメの会は5月13日、尻別川に近い倶知安町内で飼育中のイトウ親魚たちから2007シーズン最初の採卵を試みました。残念ながら時期がやや早く、採卵はなりませんでしたが(前ページ参照)、全5個体を飼育池から掬い上げ、麻酔で眠らせてから、北海道立水産孵化場の川村洋司主任研究員が身長(尾叉長=吻前端から尾びれ後端中央の切れ込みまでの距離)と体重を測定しました。また、遺伝情報を調べるために、オビラメモニタリングチームの大光明宏武会員が、全個体の体組織を採取しました。



2007年5月13日現在

愛称	性別	尾叉長(cm)	前年比	体重(kg)	前年比
ササキサン	雌	92.0	-1.0	10.70	+1.2
チョースケ	雌	87.5	+0.5	9.82	-0.88
ノリカ	雌	89.0	+1.0	8.06	-0.3
キンチャン	雌?	65.5	+0.5	2.88	+0.18
チビ	雄	87.5	-0.5	7.70	-0.3

この日はあいにくの小雨模様だったにもかかわらず、会員のほか、小学生や行政関係者、メディア関係者も見学。総勢約25人が飼育池に集まり、イトウ保護について語り合うなど、大いに盛り上がりました。(写真/沼田雄一、文/平田剛士)

地球環境基金

2007年度も計およそ200万円をサポート

「尻別川の未来を考えるオビラメの会」のイトウ個体群復元活動に資金面で多大なサポートを下さっているパタゴニア日本支社(鎌倉市)と、独立行政法人環境再生保全機構・地球環境基金(川崎市)が、引き続き2007年度も当会を援助くださることが決まりました。

パタゴニア日本支社からは、「ワールド・トラウト・プログラムTシャツ」の売り上げから91万8957円を4月27日に贈っていただきました。また地球環境基金からは、当会の2007年度事業に対して110万円の助成が内定しました。

いつも手厚いご支援をありがとうございます

「オビラメ30年計画」に基づいて、2030年までに「オビラメ復活」の実現を目指しているわれわれにとって、飼育魚の人工繁殖成功、倶知安川水系での再導入実験着手、後志支庁との協働開始と、ようやく軌道に乗り始めてきた取り組みを、このように資金面で力強く支えてくださる企業や基金の存在は、ほんとうにありがたく、いくら感謝しても足りないほどです。期待を裏切らないよう、絶滅危惧種イトウ尻別川個体群の復元に向けていっそう努力していきたいと思っています。



オビラメの会事務局長 吉岡俊彦

photo / Hirata Tsuyoshi

落差工改修に向けて 魚道検討会スタート



オビラメの会がイトウ再導入実験を進めている尻別川水系俱登山川（倶知安町）の落差工改修に向けて、北海道後志支庁主催の「魚道整備環境配慮検討会」の第1回会合が5月16日、倶知安町の後志支庁庁舎で開かれました（右上の写真）。

俱登山川支流に放流したイトウ稚魚が成長後に回帰してくる際、遡上の妨げとなる落差工に手当てして欲しいという当会の要望を受けて、後志支庁は昨年、落差工5基に魚道を設ける計画を決定（オビラメニューズレター26号に詳細）。設計に先立ち、どのような形状や工事がベストなのかを協議する場として、この検討会が招集されました。検討員の顔ぶれは別表の通りです（敬称略）。

後志支庁産業振興部が示したスケジュールによれば、工期は2011年までの5年間で、事業予算は1億5000万円。今年工事する

のは俱登山川最下流の1基で、夏までにデザインを決め、10月以降に着工予定です。

検討会で当会は「オビラメ復活30年計画」を解説した上、新設する魚道の条件として（1）メンテナンスフリー、（2）底生魚も遡上可能な構造、（3）流域内の材料（土石など）を使うこと、の3点を提示しました。また、当会モニタリングチームと事業者（支庁）とが別個に行なうモニタリング調査で、可能な範囲で情報交換することと、とデータ評価に基づく順応管理型工事の導入などを提案しました。

検討会前に同支庁が実施した住民意識調査の結果も報告され、「無駄な公共事業だ」といった声も紹介されましたが、検討会では「30年計画を立てて生態系復元を目指すというオビラメの

会さんの取り組みを聞けば、この魚道事業にはこれだけのコストをかけてもおかしくはないと思う」との意見も出ました

次回検討会は6月11日開催予定です。（本記事は、同検討会長の承認を受けて掲載しています）

（写真と文／平田剛士）

検討会長
検討員

木村篤
二口則夫
川村洋司
岡崎毅
吉岡俊彦
平田剛士
山本里志
東本和敏
高橋幸博
窪田栄

後志支庁産業振興部長
同農村振興課長
道立水産孵化場主任研究員
倶知安風土館学芸員
オビラメの会事務局長
同幹事
尻別川漁協組合長理事
北部連合会長
倶知安町建設課長
同農林課長

札幌大通公園でイトウ保護をアピール

「地球のことを考えて行動する日 アースデイ」にちなんで北海道で初めて開催されたイベント「アースデイEZO2007」が4月22日、札幌市の大通公園で開かれ、オビラメの会もブースを出展しました。

当日は草島清作会長、藤盛聡理事以下、

約10人のオビラメの会会員や、北海道工業大学の学生さんたちがボランティアとして参加。尻別イトウの魚拓や原寸大パネル、写真家の鈴木芳房さん（オビラメの会理事）による美しい作品などをブース内に飾り付け、リーフレットを配るな

どしました。

この日の入出は約1万人（主催者発表）。幻の魚として知られるイトウだけに、多くの人たちが足を止め、興味ぶかげにスタッフの解説に耳を傾けていました。

（写真と文／平田剛士）



アースデイとは？

1970年、米国ウィスコン州選出のG・ネルソン上院議員が、4月22日をアースデイであると宣言し、アースデイが誕生しました。その概念は、当時スタンフォード大学の全米学生自治会長をしていたデニス・ヘイズ氏に伝えられました。ヘイズ氏は、全米にアースデイを呼びかけ、コーディネート。アースデイ1970は、のべ2000万人

以上が何らかの形で、地球への関心を表現するアメリカ史上最大のイベントになりました。世界中に呼びかけられた1990年、日本では全国200箇所、1000を超えるグループが参加しています。

（「アースデイEZO2007」のサイトから引用）



札幌市大通公園1丁目広場に作られたオビラメの会のブース（左上）

ブース内には、草島清作会長がかつて尻別川で釣り上げた大物イトウの美しい魚拓や、多数の写真パネルが展示されました（下）

2007年6月24日

オビラメ植樹会

ニセコ町役場前
午後1時集合

オビラメ総会

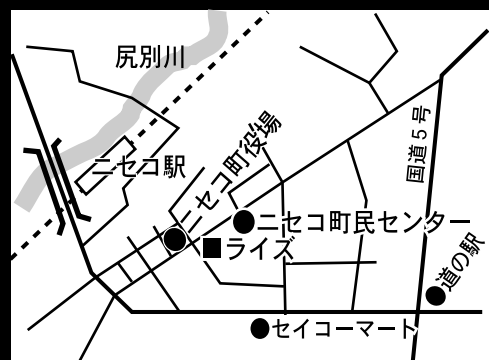
ニセコ町民センター
午後4時～

オビラメ復活30年計画（2001-2030年）の最初の10年間も、いよいよ終盤に差しかかってきました。「デカ」に続いて「ノリカ」からも待望の採卵と人工授精を果たし、また、これまでイトウ再度入実験を進めてきた倶登山川での落差工改修事業もこの秋着工予定と、少しずつ活動の成果が見えてきています。オビラメ復活に向けて今後の活動計画などを話し合う通常総会にぜひご出席下さい。

また総会に先だち、新緑まぶしい尻別川のちかくで植樹会を計画しています。どうぞお誘い合わせのうえ、お気軽にご参加下さい。

会員のみなさまへ

いつも当会を支えていただき、たいへんありがとうございます。新年度会費は、総会会場で承ります。総会欠席の方は、郵便振り込み（下記）をご利用ください。



お問い合わせはオビラメ事務局まで

0136-44-2472

「オビラメの会」は新入会を歓迎します

「尻別川の未来を考えるオビラメの会」は、会費と寄付金などで運営される市民団体です。みなさまのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。年会費は2000円です。郵便局の振り込み用紙に住所、氏名、電話番号を明記のうえ、入会希望と書き添えてお振り込み下さい（手数料はご負担願います）。会員期間はお振り込みいただいた日から年度末（5月）までです。おおむねひと月以内にニュースレターをお届けします。

- 年会費2,000円
- 郵便振替
02720-9-11016
- 加入者名
「オビラメの会」

標識オビラメ見つけたら
☎0136-44-2472
オビラメ事務局マデ

ご支援
ありがとうございます

尻別川の未来を考えるオビラメの会は、会員のみなさまよりの会費と、寄付金、および地球環境基金、パタゴニア日本支社の助成金を受けて活動しています。



patagonia
committed to the core

オビラメの会ニュースレター 第28号（2007年6月発行）
OBIRAME Newsletter No.28, June 2007
発行 尻別川の未来を考えるオビラメの会
編集 平田剛士
印刷 (株)須田製版 (北海道滝川市栄町4-4-1)
発送 吉岡俊彦
郵便振替 02720-9-11016 加入者名「オビラメの会」
オビラメの会事務局
北海道虻田郡ニセコ町富士見65「ライズ」内
吉岡俊彦方 〒048-1501 TEL/FAX 0136-44-2472
copyright 2001-2007 Obirame Restoration Group
<http://homepage3.nifty.com/huchen/Obirame/index.html>

水と空気、みどりの大自然
ニセコが好きだ
楽しんだあとは川を語ろう
御食事処・酒房

ライズ

ニセコ町富士見65 TEL/FAX 44-2472
Email / itou110@estate.ocn.ne.jp